

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

公表日:令和 5年 7月 13日

事業所名:きぼうっこ逆瀬川

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	<ul style="list-style-type: none"> 療育の部屋、自由時間を過ごす部屋、宿題をする部屋など、それぞれの活動に合わせたスペースを確保している。 療育内容(SST、運動療法)に合わせた部屋のスペースは確保できている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「はい」:80% もう少し広ければより良いと思う 「どちらともいえない」:7% 「いいえ」:0% 「わからない」:13% 見れていないのでよく分かりません。 子どもからの不満は出ていません。 	<ul style="list-style-type: none"> 限られたスペースを有効的に活用し、子どもが快適に過ごせるように、整理整頓を心がけ、広い空間を確保できるように努める。
	2 職員の適切な配置	<ul style="list-style-type: none"> 基準人員以上の職員を配置している。 療育内容(SST療育)に合わせて、心理担当職員を配置している。 法人全体で、資格や適性に合った配置になるように工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> 「はい」:87% もう少し多くても良いと思う 「どちらともいえない」:1% 「いいえ」:0% 「わからない」:12% 見れていないのでよく分かりません。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員配置については、契約時に重要事項説明書で説明している。 年度初めに、書面を配布して、職員紹介を行っている。 職員の異動に伴い、配置や加算が変更になった場合は、書面を配布して変更点について説明を行っている。 職員の専門性を高め、支援についてより具体的に説明できるように努める。
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの特性に合わせて、環境設定を行っている。 階段に手すりをつけている。 視覚支援が優位な子どもが多いため、ルールの提示はイラストを用いたツールを使用している。 	<ul style="list-style-type: none"> 「はい」:71% 「どちらともいえない」:8% 「いいえ」:1% 「わからない」:20% 見れていないのでよく分かりません。 困っている様子はありません。 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症が5類に変更されたが、引き続き、日々の清掃や消毒を丁寧に行い、感染防止に努める。 子どもの状況に合わせて環境設定を行い、清潔で安心・安全に過ごせる空間を確保する。 視覚支援など、個々の状態に合わせて用意し、子どもが安心して療育に参加できるようにする。
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染予防のため、毎日清掃と消毒を行い、各部屋に空気清浄機を設置している。 階段や大きな窓には、柵や補助錠を設置している。 	<ul style="list-style-type: none"> 「はい」:71% 「どちらともいえない」:8% 「いいえ」:1% 「わからない」:20% 見れていないのでよく分かりません。 困っている様子はありません。 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症が5類に変更されたが、引き続き、日々の清掃や消毒を丁寧に行い、感染防止に努める。 子どもの状況に合わせて環境設定を行い、清潔で安心・安全に過ごせる空間を確保する。 視覚支援など、個々の状態に合わせて用意し、子どもが安心して療育に参加できるようにする。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	・改善提案などを定期的に作成したり、法人内で部門別業務目標管理シートを活用し、課題や目標について定期的に振り返っている。		
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	・外部講師のコンサルを受け、療育の質の向上に努めている。		
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	・外部講師を招いての研修や法人・事業所内研修に参加している。 ・研修計画に基づき、外部研修にも参加している。		
適切な支援の提供	1 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	・子どもと保護者の意向や要望を聞き取り、職員間で担当者支援会議を実施し、子ども一人ひとりのニーズに合った目標を設定し、計画を作成している。		
	2 子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	・発達年齢や特性に合わせたクラス編成を実施し、発達レベルに合わせた目標を設定している。 ・児童の状況に応じて、集団活動を通じて一人ひとりのニーズに合った目標を設定し、計画を作成している。	「はい」:97% ・あるシチュエーションにおいて、ポイントをおさえ分かりやすい。 ・分かりやすく作成された資料やカリキュラム内容等により状況がつかみやすく助かっております。 ・小学生になってから少し分かりにくい。 「どちらともいえない」:2% ・内容が分からない。 「いいえ」:1% 「わからない」:0%	・子どもの思いと保護者の意向や要望をしっかりと汲み取り、子ども一人ひとりの状況に合った計画を立案できるようにする。 ・個別支援計画を作成する際は、担当者支援会議を実施し、全職員で話し合い、情報共有を行う。 ・日々の療育の中での気付きをもとに、子どもの状態の把握を行い、保護者に分かりやすく説明できるように努める。
	3 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	・SST療育では、ソーシャルスキルの尺度を4領域(集団行動、セルフコントロール、仲間関係、コミュニケーション)に分け、必要となる領域のスキルを目標として設定し、具体的な支援方法を記載している。		
	4 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	・個別支援計画、特別支援計画に沿って支援している。		

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
適切な支援の提供(続き)	5 チーム全体での活動プログラムの立案	<ul style="list-style-type: none"> ・クラス担当を中心にプログラムを立案している。 ・子どもの様子を観察し、データに基づいたミーティングを実施している。 ・問題を見つけ、改善するための対策を講じている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「はい」:87% ・色々と考えて工夫されてると思います。 ・日頃のSSTと季節ごとのイベント等両方でできるので良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの状況の観察を行い、特性や状態に応じた支援ができるように努める。 ・引き続き、月に1回は季節に合わせた行事を実施し、普段の療育で学んだソーシャルスキルの般化の場面として活用する。 ・モニタリングの書面で、活動内容の報告を行う。保護者から問い合わせがあった際や、何か変化がある時には、メールや電話、連絡帳に記載し、情報を共有できるようにする。 ・新型コロナウイルス感染症が5類に変更になったので、コロナ禍で中止となっていた休日の行事(運動会、お芋ほり)を、状況を見ながら再開していく。
	6 平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	<ul style="list-style-type: none"> ・平日:SST療育を実施している。(月ごとに季節に合わせた行事を開催している) ・休日:運動療法を実施している。 ・長期休暇:夏祭りやお別れ会などのイベントを開催している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動プログラムについて知る機会が少ない。月単位にでも、どのような目標でどのような取り組みをして子どもたちの状況を知る機会を希望します。 	
	7 活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・研修で学んだ情報を職員間で共有し、支援に取り入れている。 ・子どもの特性や状態に合わせ、状況に応じた支援ができるよう職員間でアイデアを出し合い、工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> 「どちらともいえない」:6% 「いいえ」:0% 「わからない」:7% 	
	8 支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ・当日の午前中に、クラス担当が活動の流れや目的を説明し、必要に応じてシミュレーションを行っている。 ・非常勤職員やボランティアに対しても、療育開始前に説明を行い、役割分担について周知している。 		
	9 支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	<ul style="list-style-type: none"> ・療育終了後に、全職員で振り返りを行っている。 ・クラス担当が中心となり、今後の課題や当日の反省点などを振り返り、次回の支援に繋げている。 		
	10 日々の支援に関しての正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	<ul style="list-style-type: none"> ・評価表を用いて評価を行い、子どもの様子も含めて記録に残している。 ・活動以外の子どもの様子(自由遊びなど)もケース記録に反映させている。 		
	11 定期的なモニタリングの実施及放課後等デイサービス計画の見直し	<ul style="list-style-type: none"> ・(最低)6か月に1回モニタリングを実施し、計画の見直しを行っている。 		

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
関係機関との連携	1	子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議への参画	・相談支援事業所と連絡を取り、情報の共有を行っている。 ・管理者、担当職員がサービス担当者会議に参加している。	
	2	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施		
	3	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備		
	4	児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有	・計画相談事業所を通じて、保育所や幼稚園、小学校での様子やきぼうっこ逆瀬川での支援内容の情報の共有を行っている。	
	5	放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供	・保護者からの依頼があった場合は、情報の提供を行っている。	
	6	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	・保護者向けの研修の案内があれば、玄関に掲示する、配布物として配る、メールでお知らせするなどの手段を使って周知している。	
	7	児等発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	・現在は実施できていない	
	8	事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営		

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
保護者への説明責・連携支援	1	支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	・契約時に、重要事項説明書で説明している。	「はい」:99% ・変更の都度文書がきます。 「どちらともいえない」:1% 「いいえ」:0% 「わからない」:0%	・引き続き、丁寧に説明することを心がける。 ・職員の異動に伴い、配置や加算が変更になった場合は、書面を配布し変更点について説明を行う。
	2	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	・新規利用者に対しては、契約時に保護者に説明をしている。 ・個別面談を実施し、支援内容を説明しているが、令和4年度は新型コロナウイルス感染予防として、非対面(電話、Zoom)での面談となった。	「はい」:80% ・療育の状況をいつもくわしく教えて頂いてます。 「どちらともいえない」:17% ・ノート等で相談はしているがモニタリング以外で1~2か月に1度程度の状況報告があると尚良い。 「いいえ」:3% ・デイサービスの状況を定期的にもっと知りたい。 「わからない」:0%	・ペアレントトレーニングは実施していないが、保護者から相談があった場合は、子どもへの対応方法について助言を行う。
	3	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施	・きぼうっこ逆瀬川では、ペアレントトレーニングは実施していない。	・自己送迎:お迎え時に、当日の子どもの様子や療育内容などをフィードバックしている。 ・送迎利用:個別面談の際に、子どもの様子を伝えている。 ・療育の内容については、振り返りファイルを用意し、毎回シートを持ち帰ってもらって確認できるようにしている。	・日頃の子どもの様子をしっかりと観察し、事業所で気付いたことを保護者にしっかり伝えることができるようにする。 ・保護者から学校や家庭での様子を伺い、情報を共有できるように、日頃からコミュニケーションを図ることができるようにする。
	4	子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	・来所時や電話、個別面談時に相談を受け、必要な助言をするようにしている。 ・その場で答えることが難しい場合は、職員間や関係機関と話し合いを行い、保護者にフィードバックするようにしている。 ・保護者から依頼があった場合は、事業所内相談支援、関係機関連携会議を実施している。	「はい」:85% ・毎度ご丁寧にご対応頂き、ありがとうございます。 ・メールなどで相談させて頂いたとき丁寧に対応頂き、ありがとうございます。 「どちらともいえない」:12% 「いいえ」:1% 「わからない」:1%	・引き続き、相談があった場合は丁寧に対応できるように努める。 ・保護者からの依頼があった場合は、事業所内相談支援、関係機関連携会議、家庭連携(相談支援)を実施する。
	5	保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	・例年、保護者会や参観日を開催していたが、令和4年度は新型コロナウイルス感染予防のため、中止となった。	「はい」:28% 「どちらともいえない」:27% ・コロナ禍のため、なくても仕方ないと思う。 「いいえ」:24% ・コロナ禍なので難しいのだと思います。 ・コロナ終息後に期待します。 「わからない」:21%	・新型コロナウイルス感染症が5類に変更になったので、状況を見ながらできる範囲で再開していく。
	6	父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援			

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
保護者への説明責・連携支援(続き)	7	子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	<ul style="list-style-type: none"> ・苦情解決体制について書面を掲示している。 ・苦情があった時には事実関係を調査し、保護者には対応方法を書面で伝えるようになっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「はい」:84% 「どちらともいえない」:5% 「いいえ」:0% 「わからない」:11% ・基本的に誠実に対応して頂いているが、保留になることもあるので答えがほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもや保護者とのコミュニケーションを図り、信頼関係を構築できるように努める。 ・子どもや保護者から相談や要望を伺った際は、担当職員だけで判断するのではなく、職員間で情報の共有を行い、しっかりと対応できるように努める。 ・日頃から色々なことに気を配り、苦情に繋がる前に解決できるように努力する。
	8	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて、メモ・絵カード・スケジュール提示をするので、分かりやすく伝わるように気を付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「はい」:95% 「どちらともいえない」:4% ・フィードバックがもう少しほしい。 「いいえ」:0% 「わからない」:1% 	引き続き、必要な配慮を考え、実施していく。
	9	定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	<ul style="list-style-type: none"> ・法人の広報誌「きぼう号」を発行している。 ・毎月、ホームページで行事や活動の様子をお知らせしている。 ・イベント開催時には、事前にお知らせを配布している。 	<ul style="list-style-type: none"> 「はい」:69% 「どちらともいえない」:13% 「いいえ」:4% 「わからない」:13% 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページを定期的に更新し、療育の内容をお知らせできるように努める。 ・行事予定表を配布する。
	10	個人情報の取扱いに対する十分な対応	<ul style="list-style-type: none"> ・契約時、保護者に個人情報の取り扱いについて説明している。 ・外部見学者に対しても個人情報取り扱いの同意書を記入していただいている。 ・必要に応じて、イニシャルを使用し、個人が特定できないようにしている。 ・個人情報が記載してある書類を破棄する時は、必ずシュレッダーを使用している。 	<ul style="list-style-type: none"> 「はい」:88% 「どちらともいえない」:1% 「いいえ」:0% 「わからない」:11% 	引き続き、適切な取り扱いを行っていく。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
非常時等の対応	1 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急時対応マニュアル(災害、事件、事故、自殺、苦情)を策定している。 ・保護者へは、希望があれば閲覧していただけるようにしている ・BCPを策定している。 	<ul style="list-style-type: none"> 「はい」:83% 「どちらともいえない」:7% 「いいえ」:0% 「わからない」:10% ・防犯マニュアルについては分からない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれのマニュアルについて職員間で周知徹底し、状況に応じて見直しを行う。 ・定期的にBCPの見直しを行う。
	2 非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・最低年に2回、全クラスで避難訓練(火災・地震)を実施している。 ・保護者へは毎回メールで周知している。 ・実施後は、ホームページに掲載している。 	<ul style="list-style-type: none"> 「はい」:95% 「どちらともいえない」:3% 「いいえ」:0% 「わからない」:2% 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に避難訓練を実施し、緊急時に全職員が対応できるようにしておく。 ・引き続き、避難訓練を実施する前に、保護者にメールで周知を図る。
	3 虐待を防止するための職員研修機会の確保等の適切な対応	<ul style="list-style-type: none"> ・外部講師を招いた法人内研修に参加している。 ・虐待防止チェックを定期的に行い、各自で対応方法を振り返るようにしている。(職員会議も実施している) 		
	4 やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	<ul style="list-style-type: none"> ・身体拘束は行っていない。 ・行動制限などを行う場合は、必ず事前に保護者に相談を行い、了承を得た上で実施するようにしている。 		
	5 食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	<ul style="list-style-type: none"> ・新年度に、アセスメントシートで聞き取りを実施し、クッキングなどの行事の際は使用する材料を事前に伝え、アレルギーの確認を行っている。 		
	6 ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハットや事故などがあった時には、記録に残し、法人内、事業所内で情報共有し、改善案を検討している。 ・記録に残した3ヶ月後には、振り返りを行っている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・事故になる前に、ヒヤリハットを見つけ、対処できるようにする。 ・事故やヒヤリハットが起きた時には、再発防止に努める。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
満足度 ※	子どもは通所を楽しみにしているか 事業所の支援に満足しているか	・個々の子どもの状況や特性に合わせた支援を行い、楽しく通所できるよう療育内容を工夫したり、環境設定するように努めている。	子どもは通所を楽しみにしているか 「はい」:84% ・友達がいって楽しみにしています。 ・毎回行くのを楽しみにしています。 ・特に運動療法は大好きです。 ・学校を休んだ日でも通所したがります。 「どちらともいえない」:13% ・疲れて行き渋ることがある。 「いいえ」:1% ・「わからない」:1% 事業所の支援に満足しているか 「はい」:99% ・支援方法も行き届いていて先生方を大変信頼している分、期待値が高くなってるかもしれない。 「どちらともいえない」:1%	・子どもが楽しく通えるように、子どもに目標や希望を聞いて、療育に反映できるようにしていく。 ・子どもの集団生活に役立つソーシャルスキルを習得できるように段階に合わせて支援する。 ・今ある子どもの状況をしっかりと把握し、できないことに着目するのではなく、できることが増えるよう支援する。